



可認教司屋古
所務事区教行所
部 10 円
一年 100 円

ジョン・ラビン神父様の

逝去を悼む

丸山神父

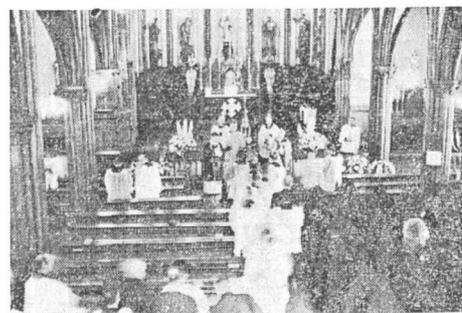
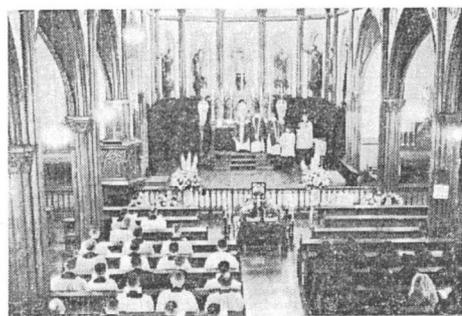
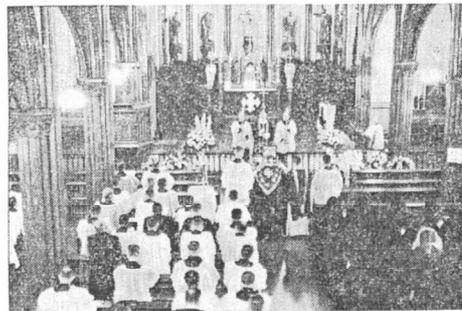


十一月の死者の月に当って、私共京都教区の司祭は、同僚の一人の司祭を天国に送らねばならない淋しさをしじみと味わっています。

故ジョン・ラビン師略歴

一九二七年十月二十七日生
一九五四年六月十二日司祭叙階
一九五四年八月二十一日来朝
一九六三年十一月八日逝去
(享年三十六才)

ラビン神父様は満三十六才でした。まだこれから充実した働きをなされるという年で天国へ召されました。神父様は二十七才の時に、司祭に叙階され、九年間司祭として活躍なさいました。司祭叙階後直ちに日本に來られ、北海道の岩見沢教会を勉強なさり、北海道の一年間日本語を振出しに、衣笠教会等を歴任され、最後に桑名教会に勤務されました。神父様は温和な方で、早く母上を亡くされ、国許には父上と御兄弟がおられます。三年前には、半年間の休暇をとり、帰国なさいました。そしてまた三年後の帰国を楽しみにしておられた神父様でした。私共は国許の肉親の方々の驚き、特に父上の驚



神父様は、采朝後、一九五五年五月まで東京日本語学校で日本語を勉強され、六月から北海道岩見沢教会においてライアン師の下で日本語を勉強しながら助任のつとめを果されました。五六年八月から翌五七年六月までヒューズ師の助任として衣笠

教会で働かれ、その後再び北海道へ赴かれ、清水沢教会で主任ヘスラー師と共に六〇年八月まで信者の司牧と布教に努力なさいました。八月から半年の休暇をとり帰国されました。休暇後数ヶ月間米国に留まっていた学校や教会を巡回し、メリノール会

員の召命のためにお働きになりました。六一年八月再び北海道へお帰りになり、六三年五月下旬まで静内教会の主任をつとめておられました。健康を害され、五月二十六日から約一ヶ月間、回生病院に入院なさいり。その後、長浜その他の教会に手伝い

はあまりあるものと想像出来ます。司祭を志し、司祭としてそのつとめを続ける為には、司祭でなければ判らない犠牲と苦しみがあります。

私共日本人としては、日本人の司祭として、また日本の信者として、短い司祭生活でありましたが、ラビン神父様がその生命を賭けて、そして全情熱を傾けてこの日本人々々

のたために生涯を捧げて下さった事に對して心からの感謝を捧げずにはいられません。「神父様、ありがとうございました」

から離れてこの地上を彷徨い永遠の憩いの場所を得ずして、やがて神様の御許に帰ってゆくべきものなのであります。私共はやがて、神様の御側に憩って、永遠の喜びに浸る事が出来るのです。そこには最早死も苦しみもないのであります。この地上には、永遠の御ありませぬ。「蓋し我等は此処にては永存する都會を有せずして、未來のものを求む」とある通りです。それは、私共が「最早他所人、寄留人非ず、聖徒等と同国民となりて神の家人」だからであります。天国では、もっと神様を愛し、また神様から愛され、更に私共は互いに愛し合い、尊敬し合いつつ神様の祝福の中に憩うのであります。

この犠牲に満ちた生活にあって、宣教師の唯一の喜び、慰めは、司牧する信者達、求道者達から愛され、慕われる事だけである。

「はとは、その足をどどめるべき処をいづくにも見出し得ずして、箱舟のノアの掌に帰り来れり」と記されております。そのように、私共の靈魂は、神様の御手

に行かれ、九月から桑名教会の助任として働きを始めたばかりです。

☆ ☆ ☆
(写真説明) 上から数構式 荘厳、サ 告別式 埋葬前の祈り 埋葬

公会議に出席して

京都教区長、パウロ古屋司教

至愛なる信者の皆様へ

第二ヴァチカン公会議の第二総会へ出席のため、出発の際は皆様方の心からなる精神的と物質的の御支援をたまわりました事をここに改めて厚く御礼申し上げます。お蔭様で無事ローマに着き早速公会議は始められ、昨年よりはと順調に進捗して居ります。全世界五億八千万の信者を司牧するあらゆる民族からの司教達が一堂に集まって真心と善意に満ちて、真理の探究と人々の幸福のために論じ合っている光景は今更ながら地上の如何なる会議にも見られない平和と希望に輝き渡つた素晴らしいものと思われまふ。最初の日のパパ様のお話は一時間余にわたるもので切々たる語調で全人類の地

上の幸福と永遠の幸福とを希われ、殊に信者たるものはキリストの神秘体の一員として真理と愛に生きて、様おさとしになりました。そして、各人は日々の救霊ばかりでなくキリスト様の御国の発展のためにも参加しなければならぬ、そのためには「愛」に活きねばならないと強調されました。今度の会議には過去二千年間の如何なる会議においてより信使徒の重大性が叫ばれて居ります。信者一人一人が神の子神の家族の一員として自覚し神と人に対する愛に活きる様、機ある毎に述べられて居ります。そして公会議には聖取者ばかりでなく、初めて平信徒の代表(婦人でもよい)の代表が実際

には居りません)が十数名(皆大学の有名な教授)も参列して居ります。これは信者の方々も教会も自分のものである事に努力して居るの光栄のため愛し、教え尽力しなければならぬ事の表現です。何卒、皆様も、今後ますます信仰を深め愛に活き徳に進むよう、各自の身分、立場において努力して下さい。私共は未だパパ様に面謁して居りませんが、過日、カニヤ、ローマ使節が目にあった時「日本は素晴らしい国だ、日本の信者の事はよく解っている。司教方を通して信者方皆さんによく伝えて欲しい。そして最上級の祝福を日本の教会の信者一人一人にお祈りする」と申されたそうです。

今日では之で失礼致します。いづれまた、パパ様にお会いしましたらお知らせいたします。
一九六三年十月五日
ローマにおいて

京都教区の皆様はどうか自重して、世界の他の教会の人々に負けない程頑張つて、神様の御名に叶う理想的な徳高い信者となる様お努め下さい。私も永遠の都ローマから皆様の上の平安と御恵み豊かな祝福とを心からお祈り申し上げます。
尚ローマの気候は京都よりは少し遅い様です。毎日会議には盛装して居りますからでしようが、毎度「汗」が出ます。毎朝の様に雷が鳴りしぐれの様に雨が降ります。今はブドーのシーズンで道端、至る所で大粒のおいしいマスカットのような味のものを買って居ります。一キロ二〇リッラ(七十円)で私も一度買って来ましたが、皆さんに一粒づつでも分けてみたいと心で思いますが仕方なく一人でムシムシヤ食べました。残念の至りです。

見えていました。それから夕食を御馳走になりましたが、富沢司教様も御一緒でした。明日はあまり時間が無いと言いますと、富沢司教様が、それでは案内してあげようということでした。お二人共非常にお元気でしたが、仲々お忙しい御様子です。毎日五時半頃に起きて御ミサを済されることとです。それは、大勢の司教様が泊っておられますので、御ミサの順番が仲々大変だからです。公会議に出席は八時にバスに乗って、公会議に出席されます。公会議は聖ペトロ大聖堂で十二時三十分まで続くそうです。
翌日、午後一時に再びホテルへ来るようにというお言葉をいただいた私の宿泊地へ帰りました。
翌日、午後二時から、約二時間、富沢司教様に、聖ペトロ大聖堂内、それから、その他コロシアム、フォンテン等、見所を案内していただきました。聖ペトロ大聖堂内部の豪壮な事、ミケランジェロが設計し、工事に着手してその一生をささげ、更に百年以上を費して完成したのでそうです。富沢司教様が「古代の人は、仲々スケールの大きなことをやりますね。科学の進歩した我々の時代も、これから見ると余り進んでないですね。この壁画は全部モザイクですよ、よくみて見なさい」と言われて、注意して見ますと、成程、立派な、よく御絵としてカトリックの書房で見かけるミケランジェロやその他巨匠の巨大な壁画ですが、すべて細かいモザイク細工です。その色の美しいこと、遙か上方、天井は楕円型の壁面で、天窓から差し込む光線が美しく天井の壁画を浮かべあがらせている。いかにも地の底より天国を仰ぐ風情です。
このようにして、古屋、富沢両司教様にお目にかけて、ごく短いローマ滞在をこの上もなく有意義におくらせて頂きました。これも聖母の御執成しかと有難さが身にしみて感ぜられました。

「ローマへの旅」

関西電力原子力部第一課長

アウグスチノ 川口龍夫

主の平安

十月二十九日、ナポリから海岸沿いに高速道路をバスを走らせて、原子力発電調査団の一行は、ローマへと向いました。途中TVのギャラントメンによく出て来るモンテ・カジノの激戦地附近で昼食をとりまし

が、ころころと駆けて行きます。仔牛ほどもあるよく肥えた豚が子供をいっばい連れて来そうです。不思議なことに、町は小高い丘の上に群つています。随分古い街の趣きです。水害も考えられないこの地方に、どうして丘の上ばかりに家が密集しているのか、一寸訳が分りません。強い理屈をつけられれば、古いローマ時代からの街の様子だから、昔の外敵を防ぐ目的で山塞のような丘の上に街をつくらされたものでしょうか。そういえば、万里の長城にも似た遺跡が高速道路のすぐそばに連なっていました。そして丘の頂上には、

必ず教会の十字架が夕日に輝いています。遠く、また近くの木立ちはオリーブの木でしょうか、何でしょうか黄色く紅葉しかかかってとともきれいです。

こんな旅を続けながら、六時頃、暗くなってからローマの街に入りました。私一人だけ、街の真中でバスから降りました。翌日、午後の飛行機で、ミラノへ発つことになってい

ますので、何とか古屋司教様、富沢司教様にお目にかかり度いと思つたからです。バスを降りたのは、近くに大男が肩を肩に支えた見事な噴水のある処でした。何とかいう噴水で有名なのだそうです。これはあとから古屋司教様から伺いました。街角のレストランに入って、電話を掛けた。Hello, may I speak to Father Furuya, from Japan? Professor Furuya, ...相手方は英語が分りませんし、私はイタリア語がさっぱりぶんぶんかんぶんです。そのうちに Father Furuya が通じました。古屋司教様が幸い、お部屋におられまして、電話に出て頂きました。

富沢司教様に、聖ペトロ大聖堂内、それから、その他コロシアム、フォンテン等、見所を案内していただきました。聖ペトロ大聖堂内部の豪壮な事、ミケランジェロが設計し、工事に着手してその一生をささげ、更に百年以上を費して完成したのでそうです。富沢司教様が「古代の人は、仲々スケールの大きなことをやりますね。科学の進歩した我々の時代も、これから見ると余り進んでないですね。この壁画は全部モザイクですよ、よくみて見なさい」と言われて、注意して見ますと、成程、立派な、よく御絵としてカトリックの書房で見かけるミケランジェロやその他巨匠の巨大な壁画ですが、すべて細かいモザイク細工です。その色の美しいこと、遙か上方、天井は楕円型の壁面で、天窓から差し込む光線が美しく天井の壁画を浮かべあがらせている。いかにも地の底より天国を仰ぐ風情です。
このようにして、古屋、富沢両司教様にお目にかけて、ごく短いローマ滞在をこの上もなく有意義におくらせて頂きました。これも聖母の御執成しかと有難さが身にしみて感ぜられました。

MEDITATION OF THE MONTH

“CHRIST AND CHRISTMAS”

Jesus, the Savior and Lord of both heaven and earth was born into this world a poor man. He lived a life of poverty, chose poor men to do His work and associated for the most part with people who were poor. Thus, poverty became a virtue, a path trodden not only by the majority of human beings but a way of live chosen by all who would seek the Infant born in the stable at Bethlehem.

月の黙想

キリストとクリスマス

天と地との救い主なるわれらの主イエズスは世の貧しき人々のうちに生まれ給えり。みずから貧しき生活を送り、その使命を伝えるために貧しき人々を選び、生涯のほとんどを貧しき人々と共に過ごし給えり。かくて、ただ多くの人々が歩む道のゆえにではなく、ベトレヘムのうまやに生まれ給いし幼な児を求むるすべての人が選ぶ道として、清貧は美德となりぬ。

第二回子羊会バザーをかえりみて

小春日和の十月十三日、ノートルダム学院の御好意により、同学院バザーの一隅を拝借して第二回子羊会バザーが催されました。

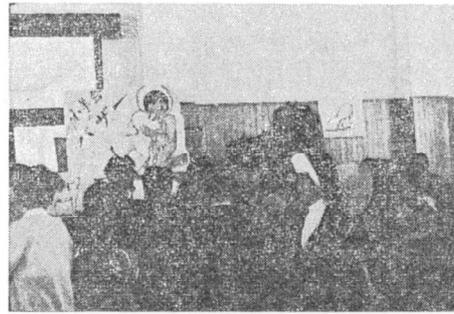
の好成績をおさめる事が出来ました事に勇気を得て、第一回バザーの直後ただちに指導司祭のゆるしを得て、第二回バザーのため、会員一同大いにはり切つて作品の制作に励みました。所が打つづく氣候異変に会場の中には夏頃から健康を害される

方もあってバザーのために直接活躍出来る方が少なくなり、私達はこうした情勢を案じつつも、ひたすらお祈りと共に準備を進めてまいりました。やがて八月も半ば過ぎる頃から地方の会員はもとより援助会員からも

お心こもる作品、善意の御寄贈品等続々と送られて参りました。そして今年には高野教会婦人会の皆様方の全面的御援助によって進められる事となり、お蔭様で無事当日を迎える事ができたのでございます。

当日会場の一隅、「子羊コーナー」は前日から色とりどりの品々が美しく飾られ、その傍には一人でも多くの方々に子羊会、及びこのバザーの意義を御理解頂き度いとの願いから、子羊会の集いを致しました時の写真を数点展示致しました。そして売場には婦人会の皆様方が午前と午後二組に分かれて、お立ち下さいました。

午前十時、開場を待ちかねた大勢のお客様はどっと売場に殺到。美しくならべられた会員苦心の作品、婦人会の方がおつくり下さったぬいぐるみ等々はもとより御寄贈の品々も、たちまちとぶように売れ、午前中には早や殆んど品が売切れという、うれしい有様、中にはこのバザーの意義を婦人会の方よりお聞きになって、お買い下さった上に子羊会にと少なからぬ御寄付まで申し出て下さるお方もある等して、約五万円という昨年を上まわる好成績をあげて、今年の第二回子羊会バザーも感謝の中に終える事が出来たのでございます。(高野教会子羊記)



京都教区特に京都地区のために作られた墓地

ここ衣笠の山合いに南西面の傾斜を切り取り、京都の南西及び桂長岡あたりまで眺められ、誠に晴々とした墓地である。

最上段聖取者用地、中段一般信者用地、下段礼拝堂番所、バスプール(計画)

一般信者用地は大体400〜500(画)くらい出来る、墓地建設に当っては、急斜面切取工事のため、天水地水の水取りに大変苦勞でしたが、大體一年間の暴風雨の試練に耐えましてから今後の天災地変には自信があります。(山中喜六)

病人役

大津教会 辻 滋

私は過去二十六年間、セキズイカリエスで、闘病生活を続けてまいりました。おとずれ慰めてくれる友とてない病苦と孤独のいらだちの病床に死を待つ毎日でした。病む身はつらい、しかしさらに孤独はいっそうつらいものです。ゲオルギウは、孤独はこの世で一番恐ろしい苦しみだ。と、また、孤独は死に等しい、と云っております。私もそのとおり恐ろしい苦しみ(孤独)におそわれてお

りました。このような私よりも、家族のもの(妻)は更にひどい苦しみをなめた事と思ひます。全身三十ヶ所からの傷口から出る膿汁の悪臭を、もいとわず、看護に、家事に、筆舌に尽せぬ程の苦役に耐えてくれました。いかに感謝してもし尽せません。この家族の愛に報うためにも、死を克服して生きねば、いや、神の愛のみ手に生かされている生命を大切にしなければと思ひました。しか

し、それには病氣と心から取組んでみる勇気がいります。過去の私は病氣と云う役をあまりにも嫌い過ぎていた事を恥じねばなりません。病床と云う舞台上で立派に病人役を演じてみるには、いかなる苦しみにも堪えることなのです。主は罪人なる私を見捨て給わず、プロンタ(影の声)となつてお助け下さったのです。また皆様のお祈りのおかげをもってかろうじて病人役を演じられるようになりました。この舞台(病床)を通じて堪えることの尊さを知らされたのであります。病床は何事にも堪える心を養わせてくれました。病床は神が私に学ばせて

下さった善き修徳の道でございます。おかげ様で二十六年ぶりに奇蹟的に傷が治癒致しました。(この喜びを何と云い表わすかを知らぬ無知者なる私ゆえ、あえて奇蹟と云いましたことをお許し下さい)病状は好転、車椅子にも乗れます。また少しなれば歩行も出来るまでになりました。この八月十五日、聖母被昇天祭には、洗礼いらい初めて御ミサにあずかりました。この感激は私にとりまして終生忘れることのできな

いものとなる事で御座いましょう。私も信者(身体障害者)は小羊会なる集いをもっております、お互いの心に希望の灯を育てて行きたいと願っております、病魔は、私達より健康を、青春を、多くのものを奪い去りましたが、しかし、彼(病魔)も私たちの心に宿る希望の灯だけは奪う事は出来ないでしょう。「希望は永久に生れ出て常に新たなるものなり」です。この世には私達よりも多くの苦しみ悩んでおられる人々の事を思うとき、日々愛なる神に、感謝して生きていく、いや、よりよく生きていきたいと努力してまいります。どうか教区の皆様、私達病める小羊のため、お祈りの御援助を賜わりますようお願い申し上げます。

☆ ☆ ☆
最後に、ノートルダム学院の皆様はじめこのバザーに御協力、御援助下さいました皆様方のために子羊一同心からお祈りをささげております事をお伝えしてこの報告を終りたいと存じます。

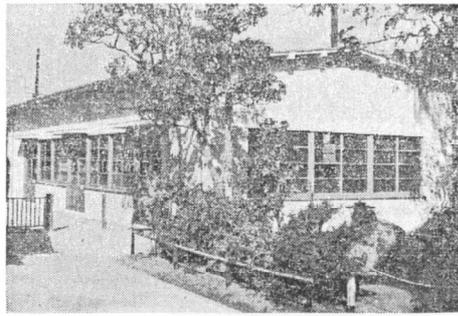
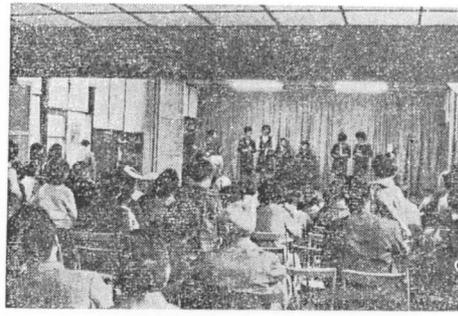
新ホール祝別祝賀会

— 西院教会 —

ロザリオ月最後の日曜日、十月二十七日、西院教会では、建築中であった教会と保育園のためのホールが完成したので、その祝別と祝賀の会を催した。

当日は、生憎曇天だったが、幸い雨降りとはならず、可成りの人々が参加した。

先ず、十時半から、主任司祭ボイソレイ師による祝別式と挨拶に始まる演奏を聴いた。



り、引続き、保育園児と先生方の遊戯やブラス・バンド等による楽しい祝賀に移った。信者、園児とその父兄等の方々約百五十名が正午頃まで楽しんだ。

午後一時からは、土曜学校、水曜学校を中心とした子供パーティを催して、風船割り、豆つかみ、ビンゴゲーム等で遊び、三時からは子供のための映画、四時すぎからは同志社大学のウエスタン・クラブ会員による演奏を聴いた。

夜は八時から信者を中心にパーティを催し、「創造の神」という映画や余興に興じた。

ホール建築に当って

本建築は、大造レゾノ鉄板瓦棒等一階建、建坪四三坪

内訳 一ホール(十二坪、三ホール(三六坪、舞台)七坪、計四三坪

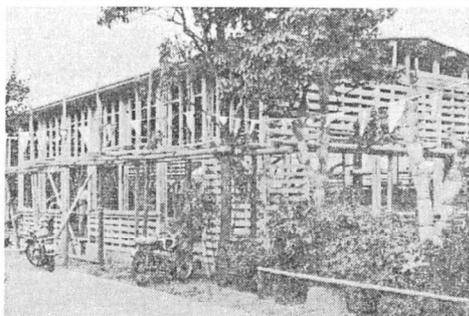
外壁 モルタル白色リシン仕上

内壁 腰、ベニヤ板張り、上耐火

ポット(天井同様)

舞台 壁、ポリエース合板張り

間仕切、ドアは折たたみ式として、三ホールを一ホールに使用出来る様にした。本建築工事は大変



時季が良かったので僅か六十日程の短期間に竣工を見ました。

御在取二ヶ年有りで、伝道館、保育園、同ホールと次々に建設せられた当教会の主任司祭ボイソレイ神父様及び助任司祭の方々の御努力には只々頭の下る思いがする、また最近訪問童貞会のシスター様方の御協力に依って保育園も益々御発展せられつつあるは御同慶の至りである。

(山中喜六)

黙想会

青年活動委員会主催

去る十月二十一日より二十六日まで、西陣教会において教区青年男女のための黙想会を行いました。絶大な御協力をいただき、心より厚く御礼申し上げます。お蔭様で、出席者二百八十八名、六日間の出席者合計は七百六十五名、一日平均出席者百二十七名と、まずは成功のうちに終わりました。

アンケートの結果

したので、ここにその結果と集計を御報告致します。

アンケート提出合計 六十四枚

各教会男女別提出数 (男・23枚 女・41枚)

高野 男1 西院 男1 九条 男2
女3 伏見 女0 北白 女1
衣笠 男2 伏見 男1 北白 女2
女4 川 女1 川 女0
桂 男1 西陣 男10 三条 男3
女1 西陣 女20 三条 女11

アンケート

1、企画としては

A 良い 51
B 普通 13

C 悪い 0
D 何んとも思わぬ 0

2、黙想会の期間(6日間)について

C 長すぎる 0
B 丁度よい 51
A 短かすぎる 13

3、季節について

C 夏 1
B 秋 5
A 冬 13

4、テーマ(使徒信経)について

C 強い関心を持った 19
B かなり興味をひかれた 41
A 何んとも思わぬ 2
D こんなテーマなら参加しにくいと思った 2

5、十字架の道行き

○イエズス様の公生活 1
○信徒使徒取 1
○テーマ別に違った神父様に指導してもらった事について 6

6、(何)会場の感じについて

C 普通 37
B 何んとも思はぬ 27
A 悪い 0
D 我慢ができた 0

7、黙想会の出席日数

1日 2人 2日 6人
3日 10人 4日 10人
5日 11人 全日 25人

8、今後この様な市内青年のための企画があれば参加しようと思いませんか

A はい 14
B イイエ 1
C 企画による 49

9、今回の黙想会では、各教会の青年同志の親睦を図る企画はなかったが、その事について

A そうい時間、機会は作るべきだった 34
B 必要でない 1
C 別に企画すればよい 29

10、(黙想会の時間(七・三〇)八・三〇)について

A 早過ぎる 1
B 丁度よい 75
C 遅すぎる 15

11、今回の黙想会で多少なりとも益した点

C 罪の許しについてよく理解できた 4
B 神父様12人であつたので効果的だ 1
A イエズス様の御苦しみわかった 6
D 主の愛の深さに感激した 1
C 忘れていた事を思い出した 2
B 死後どうなるかがわかった 2
A 考え方が深くなった 3
D 今後、神父様と交る機会を持つ機努力する 1

○新しい知識が増えた 3
○自己の欠点を 1

○照明が暗いのでノートしにくい 1

○カトリックの信仰と、日常生活の結びつき 9

○諸聖人に対する信心 1

○聖母に対する信心 2

少くする様心がける

○信仰が強められた 2

○大変よかった 5

○信者としての生き方がわかった 2

○失望は大なる罪、いい言葉だ 1

○主の寛大さについて 1

○信仰に興味ある青年が沢山いるのを知りうれしい 1

○告白の恵み 1

○青年館内での会話の内、家族的な雰囲気を感じた 1

○神に一步近づけた 1

○使徒信経が理解でき 1

○告白が楽になった 1

○教理の勉強不足が分った 1

○友達ができた 2

○聖霊の、所がよかった 1

○求道者である私には 1

全部よかった 1

○自己の反省をし、これからの生活へのファイトがわいてきた 1

○黙想会の意義がよく分った、特に6日間続けて行われたのがよかった今後の生活に黙想の時間を多く作りたい、黙想は地を新にする神のめぐみだから 1

霊的花束の集計 総提出数50名

ミサ聖祭 一三六回

御聖体拝領 一三〇回

御聖体訪問 二二七回

ロザリオの祈り 二四五回

聖霊の御降臨を望む祈り 一九四回

編集室より

○編集の都合により既成ニュースが遅くなりましたことを深くおわび致します。

○ニュースの性質上、予定のものを優先的にとり扱うこととしておりますのでご了承下さい。

○また、原稿不足のため見苦しい点のありましたことをおわび致します。ご意見がありましたらその都度ご連絡下さい。

○写真をとるだけ記事と一緒に送って下さい。都合により全部採用することができませんが、できるだけ鮮明なものをお願いします。